

# 胎内市における災害① - 羽越水害

## 羽越水害の概要

昭和42(1967)年8月28日から29日にかけて、新潟県下越地方から山形県南西部は記録的な集中豪雨に見舞われました。

総降水量の最大値は新潟県黒川村(現胎内市)の胎内第1ダム観測地点で748ミリを記録し、各地の山間部や渓谷で山肌が崩れ落ち、山形県小国町や新潟県関川村、黒川村では土石流や鉄砲水、河川の氾濫によって多くの死者・行方不明者が出る大災害となりました。

## 胎内市における被害

中条町(当時)では8月28日午前9時ころから断続的に強い雨が降っていましたが、午後2時ころから豪雨の兆候が濃くなりはじめました。午後6時ころ、羽黒川が氾濫しはじめ、午後11時には東本町・北本町・本町・西栄町などで水位が50センチから1メートル20センチの濁流が流れるように。午後9時に全町が停電となったのに加え、国鉄(当時)の羽越線や国道7号線が濁流で寸断され、町は孤立状態に陥りました。中心部の被害もひどかったのですが、山間部の被害はさらにひどく、飯角川、羽黒沢川など合計8本の小河川が一斉に氾濫し、700万立方メートルにも及ぶ大量の土砂崩れが起きました。最大の被害を受けたのは、山津波に襲われた飯角地区で、地区21戸のうち7戸が全壊、10名の命が失われてしまいました。飯角地区は翌年昭和43年に集落の西にある高台に移転しました。

黒川村(当時)でも、28日の午後になると中小河川が氾濫し、いたるところに水があふれ、道路や橋が流失・埋没・決壊して全村が孤立してしまいました。午後8時には全村が停電、9時過ぎ、蔵王と胎内の各部落を土石流が襲い、蔵王・坂井(南俣)・須巻・下荒沢・小長谷・楸江は家が流失・埋没など壊滅状態となりました。塩谷・坪穴・鼓岡・持倉などの地区も住家・耕地などが土石流のため大被害を受けるという未曾有の出来事でした。なお、これらの地区は、集団移転が行われました。

参考:中条町史、黒川村誌

人的被害	中条町		黒川村		住家被害	中条町		黒川村	
	死者	15名	24人	流失		8戸	32棟	全壊	51戸
行方不明		7人	半壊	55戸	81棟	床上浸水	1,737戸	358棟	
負傷者		12人	床下浸水	3,347戸	545棟				
軽傷者		71人							

出典:豪雨のつめあと 8・28羽越水害の記録、黒川村誌

## 被害の様子



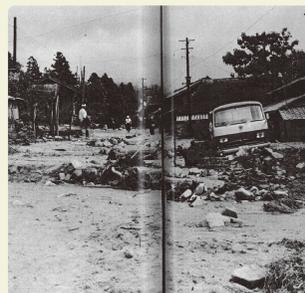
飯角集落の惨状(中条町)  
出典:豪雨のつめあと 8・28羽越水害の記録



2階へとどくほどの泥と残りの山(中条町 東本町・旧日の出町)  
出典:豪雨のつめあと 8・28羽越水害の記録



あたり一面腰までの水。川舟で避難(中条町高畑)  
出典:豪雨のつめあと 8・28羽越水害の記録



裏山からの土石は部落を埋め、県道はひざまでぬかるみに(黒川村胎内農協前)  
出典:8.28水害の記録 土石流



命のせき  
大被害をうけながら蔵王部落は死者が一人でもなかった(黒川村)

出典:飯豊山系砂防事務所 ホームページ



災害は培ってきた生活を押しつぶす(黒川村下荒沢)  
出典:飯豊山系砂防事務所 ホームページ



一階部分はほぼ土砂で埋まる



土、石、そして流木



協力しあって土砂を片付ける